

らいふ

2018.1 No.76



「カケッコだよ(釧路タンチョウ鶴)」白石 セツ子

—— 医療法人 王子総合病院理念 ——

「私たちは、みなさまの健康、医療、
介護を信頼と愛情で支えます。」

王子総合病院理念

みなさまの人格を尊重し、安全で最善の
医療を提供します。

基本方針

1. みなさまの意思（自己決定権）を尊重した、安全で信頼される医療の提供に努めます。
2. 地域基幹病院として、職員の研鑽に努め、人間愛に満ちた高度な総合的医療の提供に努めます。
3. 地域住民や医療機関との連携を緊密にし、地域の医療、福祉、保健の向上に努めます。

- 年頭挨拶
- わかりやすい医学教室(脳神経外科)
「急性期血栓回収療法について」
- 歯科シリーズ
- ホスピタメール

ホームページ

<http://www.ojihosp.or.jp/>



医療
法人

王子総合病院



謹賀新年

年
頭
挨拶



院長・理事長 大岩 均



新年あけましておめでとうございませう。皆様とともに新しい年を迎えられたことを大変喜ばしく思います。本年も皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

今年の干支は戌(いぬ)ですが、正確にいうと戌戌(つちのえいぬ)だそうです。犬は社会性があり、人間に忠実な動物です。犬は歴史上、人間が初めて家畜として飼育した動物であるとされ、そのつながりの歴史は1〜2万年前とも言われています。最近ではペットブームで犬を飼われている方も多

いのではないのでしょうか。昔は家の外で番犬として飼われることが多かったと思いますが、現在では人を癒し、心を和ませる家族の一員として小型犬を家の中で飼われている方も多いのではないのでしょうか。犬というと歌にもあるように、雪が降つても「犬は喜び庭駆け回り、猫はこたつで丸くなる」と元気に外を走り回るイメージがあります。家の中で飼われている室内犬も雪が降る外を駆け回るのが好きなんではないでしょうか。さて、昨年は王子総合病院が

医療法人となつて50周年という節目の年でした。秋には市民公開講座として岩井、田口両副院長らと共に講演をさせていただきましたが、多くの皆様に御参集いただいたことに改めて御礼を申し上げます。この時に私からは平均寿命と健康寿命の差を縮めるために生活習慣を見直しましようという内容の話をさせていただきました。岩井副院長からは乳がん、田口副院長からは前立腺がんについて話していただきました。現在日本ではがんで亡くなられ

る方が全体の約三分の一を占めています。100年ほど前までは肺炎や結核、胃腸炎などの感染症が死因の上位を占めていました。また、1930年代から戦後しばらくは結核が死因の第二位となっていました。世界的には1918年から1920年にかけてインフルエンザ(いわゆるスペイン風邪)が流行し、約2500万人の死者を出したと推定されています。この様に有史以来人間は感染症と戦い、それに勝利して平均寿命を延ばしてきたと考えら

れます。実際、明治・大正時代の日本人の平均寿命は42〜43歳で、人生50年と50歳を超えたのは昭和22〜23年ごろでした。それ以降急激に平均寿命が延び、もう少して90歳に届きそうなどころまで来ています。このように寿命が延びた要因として、二つは栄養状態の改善があげられます。もう一つは抗生物質などの出現にともない感染性疾患が大幅に減少し、結核対策も進んだことが大きな要因と考えられます。感染症をある程度制御できるようになると、それに代わって悪性新生物(がん)、脳血管疾患、心臓疾患など老化と結びついた疾患が増大し現在に至っています。また、食習慣の変化が肥満、糖尿病、アレルギー性疾患を増加させ、生活習慣病として現在大きな問題となっています。

では、石器時代のような狩猟で食物を獲得していた時代の人々が、現代人より健康であったかといえ、当然そうではなかったと思われるでしょう。しかし、最近の研究では当時の人々の健康状態は想像するほど劣悪ではなかったことが分かって来ています。天然痘や麻疹、風疹、インフルエンザなどの感染症は存在せず、がんや循環器疾患を引き起こす環境要因も当然少なかつたはずで、感染症を人間にもたらしたのは農耕の開始だと考えられています。農耕により人が集まり集落を形成して作物の収穫量を増やし、余剰作物は家畜の飼育を可能にしたのです。そして家畜飼育の開始は、動物からヒトへの微生物(細菌やウイルスなど)の伝播を引き起こすこととなります。例えば天然痘はウシの感染症、麻疹ウイルスはイヌのジステンバーが変異したもので、インフルエンザはブタと関係が深いことが分かっています。この様に家畜との濃厚な接触を通して初めて人間に感染症をもたらすことになったと考えられます。また、感染症の流行にはある規模の人口集団が必要となりますが、それも農耕の開始が係わっています。

このような感染に対しヒトは死んでしまいか、回復し免疫力を獲得して生き残ってきたと考えます。しかし、科学の進歩により1940年代にペニシリンが発見され臨床応用される事により、敗血症などの感染症に絶大な威力を発揮しだします。その後、1944年には結核の特効薬となるストレプトマイシンが開発され、更にはテトラサイクリン、クロラムフェニコールと次々に新しい抗生物質が開発され現在に至るまで続いています。その結果、人間を恐怖に陥れていたペストや発疹チフス、腸チフスといった多くの感染症が治療可能になりました。ところが現在抗生物質を多用することによりメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)やバンコマイシン耐性腸球菌などの耐性菌の出現を生み、医療上の大きな問題となっています。抗生物質の出現は、我々人間に大きな益をもたらしましたが、それが万能の薬として使用することにより負の遺産を残すことにもなっています。また、抗生物質は今日ヒトだけではなく、家畜にも大量に使われています。家畜の治療や予防に使われるだけではなく、成長促進のためにも多く使われています。抗生物質が世の中に出た数年後に、研究者は抗生物質に動物の成長促進効果があることを発見していました。実際家畜に抗生物質を与

えることで肉量が20%近くも増量することを確かめています。2012年時点での日本国内の抗生物質年間使用量は、有効成分量で総計1700ト前後ですが、うちヒト医療用抗生物質は約520トであるのに対し、家畜医療用では720トになっています。とされています。さらに、成長促進を目的とする家畜飼料添加物としての抗生物質は約180トにも上るそうです。この様な抗生物質の使用というよりは乱用が今後人類にどのような影響を及ぼすのか心配になります。改めて抗生物質の使用を考え直す時代が来ているように思います。

終わりに今年も地域の医療機関と連携し、皆様に安心・安全な医療を提供できるよう研鑽に努めたいと思います。今年も皆様にとつて良い年であることをお祈り申し上げまして年頭の挨拶に代えさせて頂きます。本年も王子総合病院をよろしくお願い致します。

*参考図書：山本太郎著 「抗生物質と人間―マイクrobiオームの危機」(岩波新書)

わかりやすい医学教室

特集

「急性期血栓回収療法」 について

脳神経外科 本間 敏美



本間 医師

脳卒中の約7割

占める脳梗塞

脳梗塞は脳卒中の約7割を占めており、当院脳神経外科においても日常診療で遭遇することが多い疾患です。脳梗塞の中でも心房細動が原因となる脳塞栓症が多く見られるようになりました。脳卒中ガイドライン2015では脳梗塞に対して発症4・5時間以内であればt-PAという血栓溶解薬を点滴することがグレードAで推奨されています。

血栓回収デバイス

24時間実施可能に

当院脳神経外科では、

2005年の薬事認可以来、東胆振地方でいち早く導入し成果を上げてきました。しかし、内頸動脈、中大脳動脈水平部、脳基底動脈等の太い主幹動脈閉塞例では血栓溶解剤のみでの再開通例は少なく、残念な結果になることも経験してきました。

2種類使い分け

再開通率98%

血栓溶解薬のみでは溶解できない血栓に対して、近年血管内治療を追加して回収するデバイス開発がなされました。日本脳神経血管内治療専門医である私が当院脳神経外科に常勤したことで院内設備を整え、24時間365日実施可能となっており、年々症例数が増加しております。

血栓回収デバイスにはステント型とペナンプラ型の2種類があります。ステント型は血栓内でステントという金属の網を展開して血栓を絡め取る方法で、ペナンプ

ラ型はカテーテルで血栓を吸い取る方法です。それぞれ一長一短があり当院では症例によって使い分けている現状です。

当院における再開通率は98%と良好です。しかし、脳梗塞治療は時間との戦いで、再開通させることが早ければ早いほど脳の壊死範囲が減るので、症状が改善する率が高いことはよく知られております。

当院は平成29年8月より東胆振管内初の320列CTを導入しており、MRI撮影を省いてCT撮影をし、必要であれば速やかに血管内治療を行い、再開通時間の大きな短縮がなされ、予後良好例が増えております。

平成28年11月の日本脳神経血管内治療学会総会では急性期血栓回収術の効果は明らかであり、行うべき治療であり、広く普及させなければならぬという神戸宣言がなされました。海外の臨床データでも有効性が証明され、海外のガイドラインでも

行うべき、行わなければならない治療に位置づけられております。

治療は訓練受けた

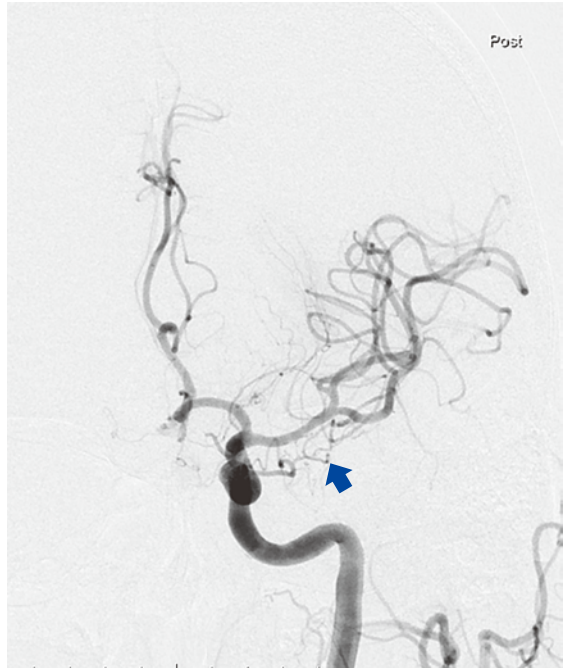
専門医常勤施設で

平成29年9月には日本脳卒中学会のガイドラインでは血管内治療がグレードAに格上げされ、適切な施設で適切な手技で行うことが条件ですが、行うべき治療となりました。しかし、脳神経

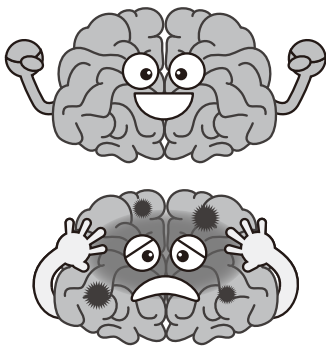
図1：治療前(右上の血管に詰まりあり)



図2：治療後(右側の血管が再開通)



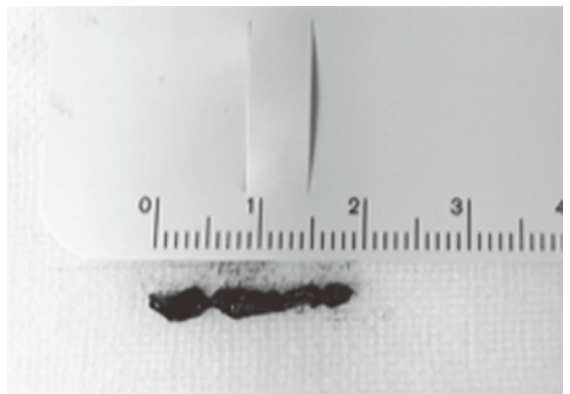
門医／日本脳卒中学会専門医／日本脳神経血管内治療専門医でもある私が初療から治療をしますので、時間を逸することなく治療が可能です。



お知らせ

『らいふ』に掲載されたわかりやすい医学教室は、王子総合病院のホームページで見ることができます。

図3：除去された血栓



「がん相談支援センター」 「がん看護相談」をご活用ください

当院はがん拠点病院として、がんに関する情報提供、相談を行っています。

センターでは、がん医療に詳しい認定看護師や生活全般の相談ができるソーシャルワーカーが相談員として対応しています。相談方法は面接、電話を問いません。

患者さまやご家族のほか、地域の方々はどなたでも無料でご相談できますので、ぜひご利用ください。

がん相談支援センター (月～金)

相談時間▶8:30～16:50

電話:0144-32-8111
(内線263・390)

がん看護相談(月～金) エントランスホール6番窓口

相談時間▶10:00～11:30
13:30～14:30

がん患者交流サロン「いずみ会」のお知らせ

『がん患者交流サロンいずみ会』はがん患者さんとご家族の集う場所です。

- 対話を通し、不安や悩みを緩和する場所
- 患者・ご家族同士が、親睦を図る場所
- がん医療に関する情報交換が出来る場所

がん医療に対する情報交換や、同じ境遇の方々との対話を通し、よりよく過ごすきっかけを見つけませんか。

開催日	ミニ講座と交流会を 組み合わせて開催
1月 9日(火)	気になる医療費・生活を支える制度
2月 13日(火)	がん治療と緩和ケア
3月 13日(火)	病気を知ろう! ～胃がんについて～

時 間▶13:30～15:00

★13:30～14:00 ミニレクチャー

★14:00～15:00 おしゃべり会

場 所▶王子総合病院 がん相談支援センター

参加費▶無料 ※直接会場にお越しください。

問い合わせは

電話0144-32-8111(内線263・390)

がん相談支援センター(担当:深田、東倉)

□腔がんとは□の中
にできるがんの総称で、歯以外の舌・唇・
頬の内側・歯肉・上あ
ごや□の底にできます。原因は喫煙や飲酒、
□の清掃不良、むし歯の放置、不具合の入れ
歯や詰め物・被せ物が常に刺激している、栄
養不良などの関係が疑われます。□の中がい
つもと違うと感じたら早めに歯科□腔外科
の受診をお勧めします。

□の中には自分でも見ることができ
るのでチェックしてみてください。

・なかなか治らない「はれ」や「こり」「傷」がある

・「赤く」や「白く」なっているところがある

・2週間たっても治らない□内炎

・不具合の入れ歯を無理して使って違和感がある

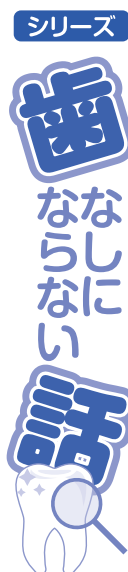
・神経や筋肉まで進行すると…
舌や頬が動きにくい・味を感じない・舌や唇
のしびれ等の症状があります。



歯科衛生士
原 志乃

□腔がん早期発見・早期治療

第56回



■診療科外来受診受付時間 〈2018年1月現在〉

※新患受付は各科 <午前>8:30～11:00 <午後>13:00～15:00

※再来機受付時間 <午前>7:00～11:30 <午後>12:15～15:00

※再診の受付時間は各科毎に異なりますのでご注意ください。

診 療 科	午 前	午 後
内 科	休 診	休 診
循 環 器 内 科	月～金 ※再診は11:30までの受付	水
消 化 器 内 科	月～金 ※再診は11:30までの受付	なし
呼 吸 器 内 科	月～金 ※再診は11:30までの受付	月～金 (火曜・水曜日は予約患者のみ)
血液腫瘍内科	月～木	月～金
外 科	月、水、金 ※再診は11:30までの受付 火、木 ※再診は11:00までの受付	月、水、金
心臓血管外科	月、水、金 ※再診は11:30までの受付	金(静脈瘤外来のみ)
脳 神 経 外 科	月～金 ※再診は11:00までの受付	月、火、木、金(新患・予約患者のみ) 水(新患のみ)
整 形 外 科	月～金 ※再診は11:00までの受付	月、木(スポーツ外来のみ)
小 児 科	月～金 ※再診は11:30までの受付	月、金 (火～木は一般外来休診です)
耳 鼻 咽 喉 科	月～金 ※再診は11:00までの受付	金(再来患者のみです。新患、紹介患者の受付はできません)
泌 尿 器 科	月～金 ※再診は11:30までの受付 ※新患は紹介状が必要です	火、木(予約患者のみ)
産 婦 人 科	月～金 ※再診は11:30までの受付 ※金曜日 産科受付 8:30～10:00	木 1カ月検診(産後検診)のみ
眼 科	月～金 ※再診は11:00までの受付	水(予約患者のみ)
皮 膚 科	月、水、金 ※再診は11:00までの受付 ※新患は紹介状が必要です	なし
麻 酔 科	月、水、金 ※再診は11:00までの受付	なし
放射線治療科	月～金 ※再診は11:30までの受付	月～金(予約患者のみ)
歯科・歯科口腔外科	月～金(予約患者のみ) ※再診は11:30までの受付	月～金(予約患者のみ)

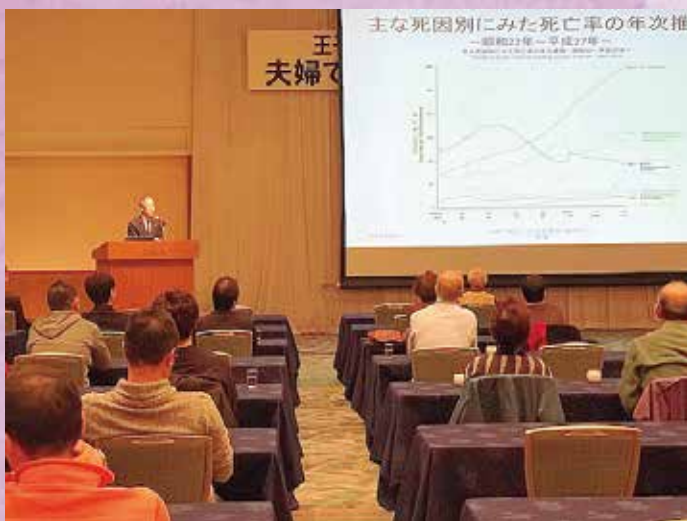
医療法人50周年記念地域公開講座

10月21日土曜日13時より、グランドホテルニュー王子に於いて、医療法人50周年を記念した地域公開講座「夫婦で学ぼう 生活習慣病と最新のがん医療」を開催しました。

大岩院長からは、「生活習慣を見直し、健康寿命をのばそう!」、岩井副院長からは、「乳がんのことをもっと知ろう」、田口副院長からは、「『前立腺がん』ってどんな病気?」と題した演題で、家庭や社会を支える地域の皆様を対象に、身近な医療情報をわかり易く解説する形での講演が行われました。

秋の行楽シーズンを迎えるなかで、約70名もの方のご参加があり、最後まで大変熱心に耳を傾けていただきました。

当医療法人は、これからも安全で最善の医療を提供しながら、地域の皆様とともに発展していきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



予防健診のお知らせ

- 健診日：月曜から金曜日
- 時 間：午前8時～12時頃まで

1. 一般健診 22,831円
2. 日帰り人間ドック 30,240円
3. 追加項目
 - ① 乳がん検診 (2方向 5,657円・1方向 4,629円)
 - ② 子宮がん検診 5,997円
 - ③ PET-CT検診 94,629円
 - ④ その他
4. その他

お気軽に
お問い合わせ下さい

申込み・問合わせ先

健診センター：
☎0144-32-8111(代)
内線 295・296

表紙写真の募集

条件

- 1人何点でも結構です。
- 風景写真(人物が写っていないもの)
- カラー写真
- 原則として応募写真は返却いたしません。(返却ご希望の方はお申出下さい。)

応募方法

- 写真の裏にタイトル、住所、氏名、電話番号を記入願います。
- 提出先は「らいふ」事務局まで。
- 採用の方には「らいふ」郵送にて発表します。お写真下にお名前を掲載させて頂き、粗品を進呈いたします。

糖尿病教室のお知らせ

下記の日程で開催します。
どなたでも参加できます。

参加費
無 料

お気軽にご参加ください(第3木曜日)

○開催日：平成30年(第3木曜日)

1月18日(木)
2月15日(木)
3月15日(木)
4月19日(木)

○時 間：午前10時30分～

○場 所：王子総合病院 講堂(3階)

○講 師：医師、理学療法士、薬剤師
管理栄養士、看護師
歯科衛生士、臨床検査技師

※直接会場においで下さい。
※講師の都合により開催中止の場合もありますので
電話にてご確認下さい。

問合わせ先

療養指導室：☎0144-32-8111(代)内線262

「らいふ」の掲載内容についてご意見、ご要望がございましたら遠慮なく事務局までお申しつけ下さい。